
ヒューマロイドは終末、RPGの夢を見るか？

三葉酸

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ヒューマロイドは終末、RPGの夢を見るか？

【Nコード】

N1004BA

【作者名】

三葉酸

【あらすじ】

元首都トーキョーシティ。売れないミュージシャン、かわいい居候大家、ストーリーカーの死神、記録主義者な幼馴染み、非ゲーム中毒者、人類一愛される美女、地獄渡りの料理人、表側ダークヒーロー、裏魔法会社員、常習違反法律家、幽霊神社の東巫女、天王洲町菜園長、超越したマッドマウス、そして夜間図書館用ヒューマロイド。それは楽しい「表」都心生活。都会を生きる彼らがもしカジノキングダム、地球防衛機構、鶴亀長寿会などといった「裏」面子と仲良く過ごしていたら？ その問いかけにハッピーエンドは望ま

しいか、果てやバッドエンドという結末か？ 長編・皇居が京
都へ引越したので、治安を悪くしたくてたまらない悪人に立ち
だかる平和ボケの住人に苦戦する奮闘記RPGです。言霊スカイ
インと世界観が同じです。半径五メートルをもっと明るく！

おれとわたしのとりひき

本当に、本当の本当の本当に、少しだけヒーロー気取りに物事を進めてみようと思ったんだ。元首都・トーキョーシティにはこびるチンピラが、薄暗い路地裏で弱い美少女を襲おうとしているのを黙って見過ごせなくて、って思いたくて。路上で少しばかりの感動しか集めない、売れない俺でもどうにかかっこよく決めつけてみよう、と。

しゃしゃり出たいチンピラと、姿中身偽りなくどうしようもなく動機が酷似しすぎていた正義ごっこを。

案の定俺はぼっこぼこのぼっこぼこにぼっこぼこらしくぼこられてしまう訳だが、それでも自己満足くらいは感じた。無駄に重ねられた傷と痛みで霞む中、気まぐれに唐突に、チンピラ達は去って行くのを見て、とても安心したのだ。多分、この時の俺というやつは美少女を助けたことによる自己満足ではない、代わりに下されるであろう見返り、報酬を期待していたのだと思う。やっぱり俺は偽善者になっても悪人のままなんだろうな、あーあ、なんかくれねーかな美少女さん……。

すると、視界の隅の美少女さんが、動く。泥のように闇に溶ける触感みたいな黒い髪、病死寸前の青白い肌、ゆらりゆらりと俺に向かっていくおぼつかない瘦躯を囲う黒と紫の見慣れないブレザー。

正に薄幸の美少女。深窓の令嬢。俺の好みで九十四パーセント。

その麗しく濡れた禍々しい狂気を感じさせる瞳でなければ、満点など軽く小突いてしまうほどに。

「なんで私を助けたの？」酸欠気味に揺れる唇が、闇をしゃぶっているかのように蠢く。「私は助けてとも誰かとも言わなかったよ。それを大丈夫のサインだと思わなきゃ。私は平気だったのに」

幽霊はいない。UFOはいない。未来や過去へ飛べない。怪物騒ぎに遭うことも、都市伝説が現実へ目を覚ますことも、ことも、な

にもかも机上の空論だから、だったから。勇気を振り絞って人間が行う奇跡なんて、全部戦争と破壊と殺戮ばかりだ。奇跡ではない、どこかへ向かう絶望の牙。俺が行ってきたことも、生きてきたことも、奇跡と呼べないただの足掻きでしかないのだろう。

魔が差した正義ごっこ。代償は、病院行き。

俺ってかつこ悪……。

「あーあ、余計なことをしなければ病院送りにはならなかったのにね。死なないだけよかったよ、私は『仕事』が嫌いだから」

銀の瞬きが闇をよぎる。絶え絶えに長引く息を撫で、首筋に妙な引っかけかりを生み出す美少女さん。

「どうする？ 私に手を出そうとしたばっかりに返り討ちへ巻き込まれたきみ。美貌に目がくらみ、かつこ悪い男のプライド潰されて、恥ずかしくてしょうもないでしょう。サービスして、特別に安楽死くらいで社会的地位を守ってあげてもいいよ。肋骨折れちゃってるみたいだし、このままだと親玉や警察、いやでも雑誌記者の格好の餌だと思わない？ 新藤エイジくん」

いや、みぶら 逆さまの愛。らぶみー。

Love me .

みぶら。

「……お前さん、誰」かすれてしゃがれた音だけが浮かぶ。「なんで、俺の名前を」

わずかに口角をつり上げて、美少女さんは呪文のように延々と答えた。「ここいらじゃ有名だよ、売れない路上バンド。バンドと言っても一人。かつこいい見た目だけが売り、ホームレスの同情で食いなからえている貧乏大学生。ねねっ、ギターでローバンド？ フンダー？ アンプもよかつたら死ぬ前に教えてよ、私もバンドやってみたい……」

ぐらり。

意識が眠りの方へ傾く。

「あれ、ちょっと喋りすぎたかな？ 即死じゃないけど、このまま

内部出血が酷くなるとやばいかもね」

先ほどより少し明るめに笑う。なんとまあえげつないことを言うんだこの美少女さんは。意識が混濁して崩れてしまいそうなのに、夢も希望もないことをあつさりと言わないで欲しいな　　って。

思ったら、鼓動が激しく跳ね上がる。えげつないこと言われたと思いきや、えげつない痛みが過激に重なる。痛快な、いや、快感は吹き飛んだ。もうなにもかもが滅茶苦茶に縦横無尽に赤裸々に蘇る。猟奇殺人のような激痛を首のつつかりから流れてきた。一瞬にして目覚まし時計は叩き割られ、それでも止まらないアラーム音は精神的雑音のダメージとなる。

あああああ！

俺の悲鳴が夜のトーキョーシティを彩る。これはもしかして

最近ニュースで話題の連続通り魔殺人事件。

「み、ミッドナイト・リサイクル夜霧の巡礼者」……？」

「おーほー、そこまで新聞読まない子でもなかったの。立派な新聞孝行者だね」刹那、美少女の目が妖艶な青紫を紡いだ。「そうだよ、私が殺人鬼、ううん。『死神』でーすでーえーす」

うわお。まさかのまさかで思ったけど、こんな、そんな、まさか。声に出ないが、いやしかし、絶大な激痛をおおぎ立てるかのよう。美少女、ではなく、通り魔さんの声はずっと生き生きしている。俺の痛みに比例して、通り魔さんのテンションは鰻上りに辿り着こうとしている。

やばい　俺、殺される。

後悔口に遅し。

死神は俺の魂を肉体から切り離し、文字通り罪を償わせる為に地獄へ運ぶつもりだ。

「たとえ私が本当の死神でなくたって、どちらにしるきみの意識は暗幕がかかっておさらばだよ」

喉をかつ切られる。鋭利な刃物によるぱっくりとした切り口。なんだこれ、未曾有の危機。ぐるんぐるんになって、マッチを放られ

たかのように全身が熱い。焼ける痛み。摩擦熱による膨張。痛みの十乗。跳ねる世間の体。そりゃあ警察もお手上げな訳だ。拷問を生業にしている殺し屋とタメ張れそうなのがする、極上轟き。

なんでこんなことをするのだろう。見た目からしてあの、ゴシツクっぽい儀式的なアレに使われそう。あわよくば永久歯を数えながら殺されているような、は、はは。本当に大量虐殺するのが楽しいって頭がおかしいよ。馬鹿じゃないの。俺ってそこまでマークされたのかな。え、でも、やっぱり通り魔なら無差別に殺していると警察が思っているから、えー、えーえーえー。

「ごろりともたげる首を一瞥して、やっぱり通り魔さんは興奮しながら喋る。

「あーいいねー。イケメソさんが悶えながら転がるのは十年ぶりの快感だね、もうちょっと上目づかいをうるるとやってみてー」

もう訳がわからない。染み入る闇が肌を溶かす。最早目の前の俺というのは、玩具と子供にしか捉えることが出来ないのかもしれない。口がよくわからない火星語を叫んでいる。呂律がどうやって口から音を出しているのかは知ったものではないが、相当俺の方がとち狂ってしまいそうになっているのは嫌でも感じた。

死にたくない。死にぞこないでも純粹に信じられる唯一の後悔というもの。

愛が抜け落ちていくのが、否めない。これが運命で、宿命だとしても、やっぱり未練は残ってしまう訳で。助けて、殺さないで、絞るように抜け出る思考は、意識に霞がかかって俺の心を強く縛りつけるんだ。

その中。

その中で、通り魔さんは、ふいに声色が優しくなった。

「いいよ、気に入った。そんなに愛が欲しいなら、見返りが欲しいなら、私がおきみを少しだけ喜ばせてあげる。それまで両親ともども挨拶を済ませておけば」

開きかけた手に、ぞっとする冷たい温度が張り巡らされた。怖い

筈なのに、逃げてしまいたいのに、通り魔の温度は冷たくて、でも、あんなことをした後とは思えない安心感が俺を支えてくれる。まるで母親に抱きとめられる子供。心の温度。張りつめていた緊張が、ゆっくりゆっくり溶けていくのを感じる。解放される。

もういいから、なんでもするから。

聞こえなくてもいいから。

なあ。

助けてよ。

死神は鎌を振るった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1004ba/>

ヒューマロイドは終末、RPGの夢を見るか？

2012年1月2日10時50分発行